

## みんなに「喜び」を提供したい

## それが生き甲斐

「八〇歳を過ぎてからが、一番輝いていると自分では感じますね」。遠い昔の記憶を辿りながら、しみじみと語る神田さんは、現在八四歳。師範の資格を持つ太極拳の達人であり、様々な活動を行うボランティア団体「ユンタ会」会長でもある。

### 太極拳で広がるボランティアの輪

の頃があったから、中国という国に思い入れが強くなった」と、明るく当時は振り返る。日本に戻ってから、は教職者として仕事を全うし、五五歳になると、なんと中国語の勉強に挑み始めた。旺盛な好奇心とチャレンジ精神はこれに留まらず、それからしばらくして、太極拳教室に入門。さらに七〇歳の後半には高年大学に入学した。そこで、同年代の仲間たちと何かを成し遂げる、そんな喜びに目覚めたこと笑う。



日本健康太極拳協会 師範  
高年大学太極拳同好会 講師  
ボランティア団体 ユンタ会 会長  
神田史郎さん(川名本町)

現在の神田さんの日課は、川原神社で毎朝七時から行う太極拳の指導から始まる。よほどの悪天候でない限り、三六五日続いている。参加者は、若い人から年配者など様々だが、太極拳のゆったりとした動きは、年を重ねた人にも最適な運動だとか。毎朝の指導は辛くはないのか。指導は辛くはないのか。そんな質問を投げかけると、「私の頭の中には、常に誰かのために何かをしたいというこころでいっぱいなんです。周りにいる方々みんな

が、私にとっては師ですから」。そんな神田さん人柄に魅せられてか、暑い夏や凍えるような冬の朝でも、沢山の人が川原神社に集う。神田さんはまた、年に三〇回以上、様々な施設へボランティア慰問も実施している。「施設利用者と一緒に楽しむこと、それが自分の生き甲斐だと微笑む。そのせいか、太極拳を通じて出会った仲間たちには、同じようにボランティア活動に協力する人たちも増えている。「流水先を争わず」。追いつけ追い越せの世の中にあり、この言葉の大切さを身にしみて実感するという神田さん。そして今後も、ボランティア活動を意欲的にこなすし、太極拳の道を極めたい、とハツラツとした口調で将来を見据える。



「人として一番の喜びは、やっぱり他の人と喜びを分け合うことですよね。エネルギーも神田さんなら、これからもそんな優しい想いを、末永く多くの人たちに届けてくれそうです。